東京造形大学大学院プロジェクト A1-24

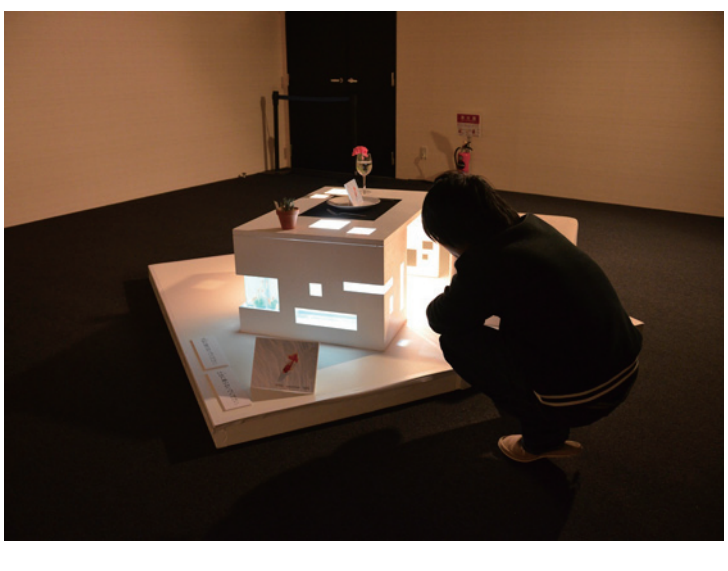
Resonance- 共鳴

主催　東京造形大学大学院プロジェクト A1-24
共催　アートラボはしもと
後援　アートラボはしもと事業推進協議会（相模原市･女子美術大学･桜美林大学･多摩美術大学･東京造形大学）

開 催 日：平成 24 年 12 月 15 日（土）～ 12 月 25 日（火）　来場者数：544 人

時　　間：10:00 ～ 17:00　実施場所：アートラボはしもと

内　　容：本展の出品作家は、映像やデザイン、テキスタイル、絵画、彫刻、版画などの分野を超えた様々な作家で構成されており、「アートラボはしもと」という場を媒体にすることで、個々の表現が「共鳴」し、個人という枠を超えた表現や関係が生まれることをテーマとしています。
また、本展では、「サイトスペシフィック（場所性）」というものを意識しています。美術館やギャラリーとは違う、様々な部屋や空間があるこの「アートラボはしもと」から生れる表現と、展示に訪れる「鑑賞者」との「共鳴する関係」をご期待ください。



出品作家

辻村ありさ	自然の中にある法則性や身近な人工物を組み合わせることによって生まれる偶然性を表現したインスタレーションを制作
隈本遼平	アートラボはしもとを舞台に、参加者とともに映像という媒体で家族の団欒を描き、一つの作品とする
錦織祐介	主に顔をモチーフとした作品を制作している
三浦彩	全く便利でない、とても使いにくい、もしくは使えない器を展示
山根恵	編み技法による身体に関わるものの制作
小川晴輝	絵画、立体、糸を使った空間のインスタレーション。絵を物質的、空間的に見た視点の表現を混在させる
大平歩	目の端にうつる、記憶にあるような、ないような、日々の瞬間をとどめた版画作品
弘実麻美	石膏、FRP などの素材を用た塑造を中心とした人体の具象彫刻の制作
黒沢萌	情けなさや悲しさへの共感覚を与えることを目的とした、ぬいぐるみを使ったインスタレーション
秋山琢磨	テーブルと水槽の機能を組み合わせた、家で楽しめる気軽な家具を制作

関連イベント

パフォーマンス「選ぶことについて考える」

開 催 日：平成 24 年 12 月 16 日（日）／ 12 月 23 日（日）　参加者数：16 人

内　　容：出品作家の黒沢萌が自作の一部となるパフォーマンス。

映画製作ワークショップ「家族の団欒を切り取る」

開 催 日：平成 24 年 12 月 15 日（土）、12 月 16 日（日）、12 月 22 日（土）、12 月 23 日（日）

参加者数：30 人

内　　容：参加者が役者として家族を演じるワークショップ。